

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇本部春季大祭◇

1月26日、中山大亮様祭主のもと、厳かに春季大祭が執行された。

◇年頭会議開催◇

年祭活動3年目、教会長夫妻が先頭に立って活動していこう
と決意を新たにした。

◇おたすけ委員会 巡回始まる◇

2月～3月末にかけて、各教会へおたすけ委員会巡回が行われます。
日程はそれぞれの教会にお尋ね下さい。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網
走
月
報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会 春季大祭

大教会1月の春季大祭は、
12日午前9時30分から大教会
長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「教祖百四十年祭三年千日三
年目の仕上げにあたる本年も、
引き続き「教祖のひながたを
目標に全教会心定めの達成」
という心定めを掲げ、初席者
五十一名、ようぼく二十三名、

修養科修了者十八名、教人六
名の心を定め、この心定めを
完遂すべく、理づくりや種ま
きとして諭達第四号の六つの
具体例実働十万件を活動目標
に掲げ、網走大教会に繋がる
ものが一手一つとなりたすけ
一条に邁進する決意でござい
ます。」と奏上した。

様がお入り下さり、親神様は
姿形も見えないし声も聞こえ
ないので、教祖の身体や口を
通して今までの学問では聞
いたことのない様々な話や、
信仰の根本、大切なおつとめ
について教えて下さいました。
そして教祖は、ただこうし
なさいと人に言うだけではな
く、自ら親神様から教えて下
さったこの教えを実行されま
した。その年数はおよそ五十
年になります。この教祖が通
られた五十年の道中を我々信
仰するものはひながたの道と
呼んでおります。

神殿講話

大 教 会 長



神殿講話 全文

した。

この「諭達第四号」では冒
頭に、真柱様の思う所を述べ
て、天理教を信仰する者の心
を一つにしたいと述べられて
います。そして教祖百四十年
祭のその日までの心掛けを詳
細に示して下さいました。

内容としましてはまず、旬
刻限の到来ということでは今か
ら十億年少し前より、天理教
が始まるのは百八十八年前の
十月二十六日と決まっており、
世界中の全ての人間の母親の
魂をもった教祖の身体に親神

更に教祖は天理教が始まり
五十年で出直し、いわゆる亡
くなるということですが、そ
うではなく今から百三十八年
前の一月二十六日に体、即ち
姿だけは隠されたが今も存命
でこの世に生きていて、おぢ
ばに留まり、世界中の人間を
たすけて下さり、我々を導い
て下さっていると「諭達」の
一頁二頁に渡って記して下
さっております。

そして真柱様は教祖百四十
年祭を勤める意義について、
我々ようぼく一人ひとりが教
祖の手足となって、年祭まで

天理教の中心的立場になら
れる真柱様は、今から三年前
の十月二十六日に我々信仰す
るものに對して、来年迎える
教祖百四十年祭までの三年間、
このような心で日々を通して
欲しいということで、「諭達
第四号」を發布して下さいま

頂きますと心で唱えれば、三度三度作るご飯が、ひのきしんに変わります。職場での掃除や家事などどんなことでも神様に感謝の心を持ちながら行動することはすべてひのきしんとなります。

三つ目は家庭や職場など身近なところからのにをいかけです。これは普段使わせて頂いている耳に感謝して人の話を聞かせて頂く、相手が明るくなるような神様が好む言葉を、お借りしている口から出す事でにをいかけになります。四つ目は病気や様々なことで悩み苦しんでいる方は大勢いるはずです。その方に対して自分のことだと思って寄り添い、その人がたすかるようにお願いづとめすることです。お願いづとめは一回するのに五分から十分もあれば終わります。一日のうちたったの五分、十分です。我々信仰するものは人の為にせて五分や十分位は祈る時間を御供させて頂きましょう。

五つ目は病で苦しむ人へおさづけを取り次ぐことです。教祖は世の中の人達を救うために救いたくて仕方がありま

せん。この教祖の思いを心に教祖の手足となっておさづけを頂いたようぼくになる我々が、とにかくこの仕上げの一年、一人でも多くの方へおさづけを取り次がせて頂きましょう。

六つ目は親から子、子から孫へこの素晴らしい教えを伝えることです。子供や孫へ伝えることは沢山あります。例えばまずは朝、目が覚めたことが有難いねと伝えたり、ご飯を味わえることが有難い、一緒にお風呂に入った時には火と水の働きがあるからお湯になり有難いまた、トイレに行った後神様の働きで出たことが有難いと毎日当たり前のようで、当たり前ではない神様の働きによって生かされていることを伝えさせて頂きましよう。

この「諭達第四号」の6つの具体例を目で見える形となる実動報告書を親神様・教祖へ上げさせて頂き、網走大教会に繋がるもの一同が一生懸命実動することにより理づくりや種まきとなり、年祭活動三年目の仕上げの年に大きく拍車がかかり、本年大教会の

心定めにあたる初席者五十一名、ようぼく二十三名、修養科修了者十八名、教人六名の達成へのご守護が頂けるのであります。この心定めはすべておぢばへ、定めた方々をお連れさせて頂いて初めて達成するわけであります。

おぢばへ帰らなければ、別席の話しも聞けませんし、おさづけを頂戴してようぼくになることもできません。修養科や教人講習会もおぢばでしか行われておりません。まずは悩み苦しむ方や何の為に生きているのかすらわからない人達へ真にたすかる場所があることを伝え、一人でも多くの方々におぢばへお帰り頂いて、教祖にたすけて頂きましょう。

本年の具体的な活動目標である、「諭達」の六つの実動十万件を網走大教会に繋がるものが一手一つとなって必ず達成し、先程お話しした大教会の心定め完遂へ向け、年祭活動仕上げの年にあたる三年目を精一杯通らせて頂き、ここ数年でこんなに一生懸命させてもらったことはないという一年にさせて頂きましよう。

災害救援募金御礼

昨年元日におきました令和6年能登半島地震に対して、皆さまにご協力を頂いており、ました災害救援募金の受付を、1月12日をもって終了致しましたのでご報告致します。

・募金総額

547,758円

・活動費

249,088円

・残金

298,670円

残金は、今後の災害救援に對しての活動資金にさせて頂きます。皆様のあたたかいご支援ありがとうございます。





真柱様ご誕生日お祝い

1月16日真柱様は満66歳のお誕生日を迎えられた。大教会では、朝づとめ、てをどりまなび終了後、皆で別館二階対面室に移動し、大教会長夫人が真柱様にお祝いの言葉を申し上げた。

また夕づとめ終了後、参拝場にて少年会を代表して瀬川三千代さんが真柱様にお祝いの言葉を申し上げた。

の三年間と仕切って、今までできなかったことや、やろうと思っていたが後回しにして、いたことを実践し成人すること、信仰者として成長することとが年祭の意義なんだとお示し下さいました。

それから先程話した、教祖の通られた五十年のひながたの道を我々も通らせてもらわねばならない。特にこの三年間はひながたの道より通る道はない。と親神様のお言葉を上げられお示し下さいました。

続いて真柱様は「諭達」の三頁目で、教祖はひながたの道をまず貧のどん底に落ちることから始められたけれども、どんな困難な中でも常に心明るく通られましたと仰せ下さり、たくさんある五十年のひながたの例から三つ挙げて下さいました。

一つ目は「水を飲めば水の味がする」ということです。これは天理教が始まった前後は、大きな大飢饉が度々起こる時代で、飢饉が起こる度、道端にはそこら中に亡骸が転がっているような状況でした。

その中、親神様より「物を施し執着をされば、心に明る

さが生まれ、心に明るさが生まれると、おのずから陽気ぐらしへの道が開ける」とのお言葉を実行され、教祖はありとあらゆるものを困っている方々に施され、終いには僅かに残った明日食べる米すら全て貧困に苦しむ人に分け与えてしまいました。

この時娘のこかん様が「お母さん、もうお米はありません」というと、教祖は「世界には枕元に食べ物や山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を通らないといって苦しんでいる人もいます。そのことを思えば私は結構だよ。水を飲めば水の味がする。親神様が結構に与えて下さっている」というようなお話をして下さいました。

これは我々が毎日健康でいられるのが当たり前と思っているが、全ては親神様が日々生きる為に必要な働きをして下さっているから、健康でいられるので、体を含め現在のこの状況に感謝させてもらおうと教えて下さっています。

二つ目は「ふしから芽が出る」ということです。これは木の節に例えての話ですが、

木には必ず節があります。節から新しい芽が出て枝が太くなり更にその枝からまた節ができて新しい芽が出て、葉が沢山ついた大きな木へと成長していきます。

人生も同様で災難や病難、人間関係の難や仕事の難など生きていけば様々な節があります。辛いことばかりかもしれないですがこの人生の節は、我々が成長していくか大きな木になるための節で、親神様がそれぞれに乗り越えられる節を用意して下さい、励まして下さっていると教えて下さっています。

三つ目は「人救けたら我が身救かる」ということです。我々は辛くてどうにもならない苦しいことが起こると、ついつい周りの人のせいにしてしまったり、物事のせいにしてしまったり、

しかし冷静に考えると案外周りのせいではなく、自分が原因で起きてしまっていることに気づかされることがあります。このような時こそ教祖は「人救けたら我が身救かる」という教えを実行してくれと教えて下さいました。しかし

これはなかなか簡単なことではありません。自分自身もがき苦しんでいる状態で、人のことを考えなさいというのは、大変酷なことをしなさいということになります。

しかし今のままでどこまでもいつても苦しみや悩みからは逃れることができないので、まずは思い切って人の幸せを願ってみる、人がたすかるように祈ってみる。この行動こそ気づけば心が澄んでいき運命が変わり、明るい人生のきっかけになると教えて下さいました。

他にも教祖のひながたには沢山、幸せになる心の使い方がありますが、この五十年のひながたこそ陽気に暮らすための唯一の道だと「諭達」でお示し下さっております。

そして五頁目で真柱様は現在の状況について、世の中には周りへの思いやりを欠くような自分中心の主張や後先を考えずに、今この瞬間だけを充実させればよいという刹那的な行動があふれ、そのことが原因で自分の力を過信しその結果、心の闇の中でさまよっている人々がいるとご指

摘下され、親神様はこうした人間の心得違いを知らせる為に、病気や悩みまた自然災害や世界的に流行している疫病を通して、早く自己主張や刹那的行動を改めてくれと、これは世界中の人間である親神様の子供達が可愛くて、可愛くて仕方ないという親心の現れであるとお示し下さいました。

そして親神様は今こそ皆が立て合って、共にたすけ合う陽気ぐらしを求められていることでもあります。

最後に我々信仰するようばくに対して具体的にこうして欲しいと六つの例をあげて下さいました。

一つ目は進んで教会に参拝をすることです。近くに教会があれば一回でも多く参拝させてもらい、行く先々で教会があればちよつと立ち寄って参拝させて頂きましよう。

二つ目は日頃からひのきしんに励むことです。例えば毎日三度のご飯を作るのはもううんざりという方もおられるかもしれません。しかしご飯を作る前に手を合わせて、親神様これからご飯を作らせて

年頭会議

教祖140年祭へ仕切って通らせて頂いている三年千日の年祭活動も残すところ1年になった立教188年1月12・13日にかけて、大教会にて「年頭会議」が開催された。

（参加者は、各教会長、委員長、前会長、前委員長）



12日は、大教会長よりお話を頂き、その後新しくなった修養科PRビデオを見せて頂いた。

続いて、栗沢分教会委員長、女満別分教会長より実動



ようき会通信

【関東地区ようき会】

立教188年を迎え、関東地区ようき会も新体制がスタートした。

1月13日、新年会を開催。皆さんの今年の抱負を話して頂き、今年も一年頑張ろうと大いに盛り上がった。

新年会では、関東地区ようき会の年間予定表もお配りした。（画像を参照）

10月には年祭への思いをひとつに「関東地区ようき会おつとめ総会」を開催予定。沢山の方のご参加をお待ちしております。

▼参加者33名



年祭活動最後の年、賑やかで楽しい嬉しい1年となりましたように、どうぞ宜しくお願い致します。

関東地区ようき会委員長

三幣 昇子

節分行事

今年も、大教会と詰所において、節分行事が行われた。

▼詰所（2月2日開催）

節分の説明をした後、豆をまき、お菓子を拾って、食堂にて恵方巻きを食べた。怖い鬼が来たが、泣く子どももなく、少年会員みんなが「鬼



少年会

1月18・19日、「みちの子練成会」が行われた。

1日目は、おつとめ・鳴物練習を真剣につとめ、夜は室内オリンピックなどで盛り上がった。



は外福は内」と元気よく声を上げて、鬼を退治した！

・大人12名 子供12名参加

▼大教会（2月3日開催）

初めに参加者みんなでゲームラリーを行い、その後豆まきをして鬼を追い払った。

毎年恒例のお菓子まきもし、ゲームラリーの表彰をして大いに盛り上がった。

・大人22名、子供16名参加



バス運行予定



2日目には、朝から雪遊びを楽しんだ後、みんなでお餅つきをし、家族へお土産用の大福も作成した。

閉会式では、お供え演奏をさせて頂き、親神様・教祖に喜んで頂けるよう精一杯つとめた。

▼少年会員22名

育成会員20名参加



教祖140年祭三年千日 最後の一年

さあ！みんなで「おちば帰り」

4月18日教祖誕生祭
4月19日婦人会総会

教祖にお喜よろこびいただきましょう。



バス運行予定

大教会では、四月の教祖誕生祭・婦人会総会に合わせて、関西空港と詰所を結ぶ送迎バスを用意致します。

【関西空港から詰所】

四月十六日

① 関空 十四時半頃出発

四月二十日

① 詰所 六時半頃出発

関空 七時半頃到着予定

② 詰所 十二時半頃出発

関空 十三時半頃到着予定

※この時間に合わせて、航空券を手配されると便利です。

大教会1月の動き

1月人のご守護

育英会寄付者

米田裕子様（叔母葬儀）

19日 会長、札幌方面信者

春季大祭 1/12(日)						
〈参拝者数 約110人〉						
神殿講話	賛 者	指図方	扈者	祭主	祭 員	
大 教 会 長	村田三遠小 井中澤藤松 春浩篤 実繁雄二志	新 川 正 人	齋藤山 藤重 芳徳善	大 教 会 長		
胡三 味琴 弓線	小す太拍ち りゃん笛 が 子んぼ 鼓ね鼓木ん	地 方	てをどり		祭 典	
丸藤瀬 山井川 のりと 道く 子恵江	瀬丸藤澤結細 川山山田城木 定一重忠和善 自徳善和広信	小栗三 松林幣 篤徳正 志正志	藤三大大新 山幣教会会 道輝美長雅正 子子人人人	座り づとめ	役 割	
結大新 城山川 美千 和泰穂 子子子	清小遠三結昔 水針田幣城原 信敏眞敦和明 喜文明志広宏	田瀬斎 中川藤 陽芳 繁一徳	藤青山新栗在 山山林原谷 真聖知徳道善 理子子正彌広	前 半		
三三栗 幣幣林 有代直 子子美	岩清小奥眞永 原水松野壁井 知清直正康 繁幸三治教幸	瀬三新 川澤川 定春正 自雄美	藤昔瀬遠村藤 井原川藤井井 直真祐浩 広 美弓子二実志	後 半		